



呉トピックス

JA共済の 地域貢献活動

5月19日、広島支店と広島支店はJA呉地域営農経済センターとJA共済連広島と協力して「第51回広こども祭」に参加。広公園多目的広場でJAのみかんジュースなどを試飲、販売し、JAひろしまをPRしました。

広地区の子ども達は朝9時から商店街から広公園までパレード。公園にはパトカーなどの「働く車コーナー」、「体験コーナー」やキッチンカーが並び、JAブースは「まちの魅力発信コーナー」に出店。

広こども祭に参加 JAをPR



▲みかんジュースの試飲、販売は来場者に人気でした

当日は大勢の来場者と様々な催しで賑わいました。

泥んこになりながら 楽しく田植え

5月13日に呉市立昭和南小学校5年生が郷原町で、6月4日に呉市立三坂地小学校5年生が広町田地区で田植えを体験しました。それぞれ、地元の生産者が田んぼを提供。児童は生産者に植え付け方を教わった後、呉市職員やJA職員に手伝ってもらいながら植え付けました。

今後は7月に観察、10月に稲刈りを体験し、学校給食や家庭で楽しむ予定です。



▲泥んこになりながら植え付け (昭和南小)



▲真剣に植え付ける児童ら (三坂地小)

JA役員が園地で 意見を交換

5月29日、JAひろしま呉地域の天下俊哉常務理事は、呉市倉橋町で「お宝とまと」を生産する倉橋町施設野菜生産組合を構成する農業法人宝島ファームのハウスと選果場を訪ねました。



▲意見を交わす天下常務(右)と水場さん

JA利用の深耕と農業者の所得拡大につなげるため、農作物や圃場の状況などを確認し、生産者や組合員と対話することで、地域とのつながりや信頼関係を強化しています。

同法人代表の水場光輝さんは近況を伝えながら「玉は小ぶりだが、質はよく育っている。産地を活性化

化、維持するため、人材をいかに増やし育てるかが重要。若手とベテランが協力して産地を盛り上げたい」と話しました。

天下常務は「生産者との対話を欠かさず、苦労やこだわりを消費者に伝える役割を担う。ブランド力の維持と強化のため、JAも農業実習や援農などできることから手伝いたい」と話します。

江田島産ブルーベリー 収穫はじまる

5月下旬、江田島市大柿町でブルーベリーを栽培する石原節夫さん(69)の園地で収穫が始まっています。



▲丁寧に収穫する石原さん

病害虫の防除や剪定、かん水など管理を徹底して安定出荷につなげる石原さんは「今年も玉太り、食味もよいブルーベリーに仕上がっている。管理を徹底してピークに備えたい」と話しました。

まず、主にサザンハイブッシュ種やラビットアイ種など約70本を栽培。品種ごとにピークを迎えながら、8月中旬ごろまで出荷が続きます。梅雨に入るとブルーベリーは降雨で裂果することもあるため、収穫は気を遣う作業。



落葉果樹

イチジク

▽新梢管理

摘芯作業の目的は、枝の伸長を強制的に止め、果実へ養分を送り込みやすくするためにやります。
摘芯位置は、春から伸びた新梢の葉10〜12枚程度の位置となります。
摘芯をすると、その枝の節から副梢が発生します。そのまま放置していると着色や果実肥大に影響を及ぼすため、副梢は除去しましょう。先端から発生する副梢のみ葉が2〜3芽で摘芯します。
樹勢の強い場合は、除去後も副梢が再発生しますが、その都度除去してください。

▽アイノキクイムシ対策
アイノキクイムシの被害を受けると、樹勢の低下や株枯病を引き起こします。7月上旬にガットサイドSを太枝に塗布し、未然に被害をくい止めましょう。

カキ

▽摘果

先月は粗もぎ摘果する時期でしたが、7月からは仕上げ摘果の開始時期となります。
摘果をすることで、果実肥大が促されます。

葉果比(果実1個に対して樹全体の葉が何枚必要かを表す比率)は、実が着いていない枝の葉も含め20〜25葉に一果とします。
優先的に残す果実はヘタが大きい果実、日焼けを受けにくい位置(下向き)の果実、傷の少ない果実などです。

欲に負けず、思い切って摘果しましょう。

モモ

▽着色管理

全体に緑色が抜けて、縫合線と果梗部に緑が残る程度の時が除袋時期となります。

果実の重さで枝が垂れ下がっている場合は果実に光を当てるためにも枝吊りや、果実に触れている葉を数枚とりましょう。

家庭菜園

7月になるとトマト、ナス、ピーマンなどの夏野菜は、初夏から夏にかけてグングン大きく育ち、多彩な野菜が収穫できます。誘引や整枝、追肥などを適切に行なって、おいしい夏野菜をたくさん収穫しましょう。
また、梅雨明けしてからは環境がガラリと変わり、急に強い日差しがさすようになって気温も一気に上がります。

梅雨明け直後、多湿な状態で急に地温が上がると、病気や害虫の発生が多くなります。
暑さ対策や除草を早めにしており、夏に備えておきましょう。

7月に栽培する主な野菜

種まき・育苗	植えつけ
大豆・キャベツ 小松菜・シュンギク 地這いキュウリ (直まき・育苗) ブロッコリー(育苗) カリフラワー(育苗)	ニラ 長ネギ モロヘイヤ

7月の主な作業

▽追肥

夏野菜は7月が最盛期で、疲れが見られるようになってきます。肥料

が切れると、実のつきが悪くなるので、早めの追肥が大切です。

梅雨明け後の乾燥時には、肥料を施したら水をかけておきましょう。

▽水やり

梅雨が明けると、急に強い日差しが照りつけるようになり、乾燥した暑い日が続きます。

土が乾燥しがちになるので、乾燥が続く場合には、ときどき水やりをすると、野菜の生育がよくなります。

また、肥料は水に溶けないと効果が出ないので、乾燥時には、肥料を施したら水をかけるとよいでしょう。

▽収穫

7月になると、夏野菜は次々と花を咲かせ、収穫が本格化してきます。収穫が遅れると、株が疲れ、実のつきが悪くなります。

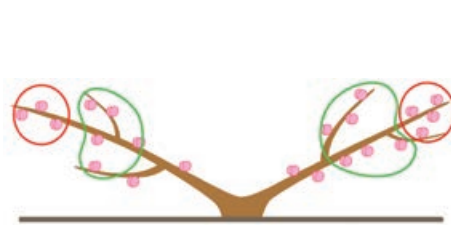
とくに、キュウリ、オクラは実が大きくなるのが早いので、早めに収穫しましょう。

▽ナスの更新剪定

夏のナスは、高温と乾燥、茎葉の茂りすぎ、ハダニなどの害虫が増えることによって、株の勢いが衰えて実のつきが悪くなります。

そこで、古くなった葉を切り落とし、夏の間は株を休ませて若返りをさせて、秋に再び良質な実を収穫できるようにするのが更新剪定です。

7月下旬〜8月上旬ごろ、枝の1/3から1/2をハサミでばっさり切り戻し、株元から30cmほど離れ



モモは主幹から遠い位置から成熟する傾向にあります。

○ 収穫が早い部分
○ 次に収穫が早い部分

図 モモの収穫時期

▽夏の枝梢管理
ブドウ
枝の混み具合を見て、1節に2芽

▽収穫
収穫はなるべく明け方の涼しい時間帯に行ないます。収穫時期が早すぎると食味が悪くなるので注意が必要です。

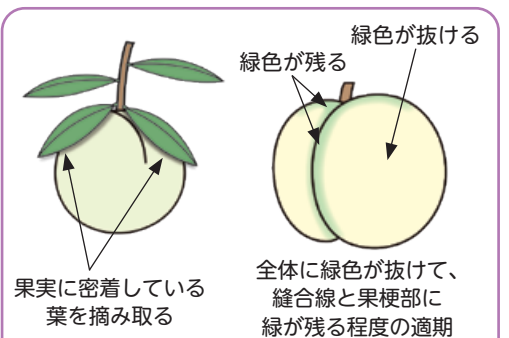
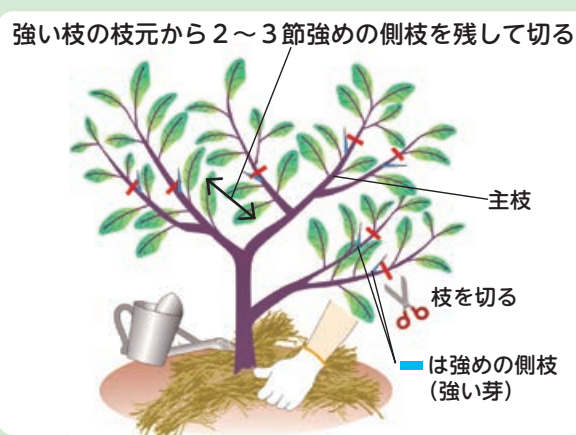


図2 モモの摘葉
図1 モモの除袋時期の目安

「更新剪定のやり方」
1 枝を1/3から1/2を切り戻す。
2 株元から30cmほど離れた場所の根を切る。
3 生育を促すために堆肥や化成肥料を施し、しっかりとかん水する。

※乾燥が続くときは、ときどき水やりをして生育を促しましょう。
※乾燥を防ぐため、ワラを敷くと良いでしょう。



その後、一カ月ほどすると元氣のよい芽が出てきて、秋には再びおいしい実がとれるようになります。
ただし、更新剪定すると夏の間に収穫できなくなってしまうので、更新剪定をする場合は、秋から冬にかけて更新剪定するのがおすすめです。

更新剪定をすると夏の間に収穫できなくなるので、家庭菜園では半分だけ更新剪定するのもおすすめです。

▽太陽熱土壌消毒

繰り返し野菜を栽培した土壌は、特定の微生物の割合が多くなり、病気や害虫が発生しやすくなります。病害虫が発生した場所では、夏に透明のビニルマルチを張って、太陽熱を利用して殺菌します。太陽の熱による土の消毒には60℃以上の高温を数時間保つ必要があるため、真夏で晴天が続く7〜9月が作業の適期です。

畝を立て、2〜3週間ほど透明のビニルマルチを張っておくと、畝の表面が高温になって菌や害虫が死滅します。

また、雑草対策にもなり、芽が出た雑草が熱によって枯れ、畝の表面にいた雑草がなくなり、雑草が生えにくくなります。

MEMO
梅雨明けの時期となります。
梅雨明け後に無降雨の日が続く場合は積極的にかん水を行ないましょう。
水源が確保できない場合は、我が家の栽培品目の中で、イチジク・ブドウなど1枚あたりの葉面積が大きい品目から順にかん水を行ないましょう。

キウイフルーツ

▽摘果

6月中に仕上げ摘果が終了しなかった場合は、早めに摘果を終わらせましょう。
残す果実数は、1㎡あたり20〜25果程度とします。

発生している芽は大きい方を残して芽かきをします。芽が伸びきった時点で枝の混み具合をみながら枝の方向が悪いものや、重なりあった枝等を除きます。
ツルが伸びてきたら棚に誘引します。誘引する際は基部から折れないように片手で基部を持ちながら枝をねじるように誘引します。
残す枝の本数は一坪(3・3m)あたり1新梢15葉くらいとして、15〜16本くらいが適当です。
巻きひげはすべて切除します。

▽施肥

ブドウはツルの伸びを抑えるため、夏の施肥は控え、9月中旬以降から施用しましょう。

ときめき ♡ 女性部通信

JA女性組織活動体験発表会 中町支部 宇根支部長が出場

6月7日、広島国際会議場（広島市）で令和6年度JA女性組織活動体験発表会が開催され、中町支部長の宇根民子さんが出場しました。

この発表会は、JA女性組織メンバーの創意工夫ある活動を組織全体に普及し、活動の活発化と組織の拡充強化を図る目的で開催され、県内JAから8人が出場しました。

宇根さんは「輝け☆女性部！オーレ!!」と題して、自身が女性部支部長に就任してから中町支部の部員とともに、JAや地域と一緒に取り組んできた活動を発表しました。



▲発表する宇根支部長



▲応援に駆け付けた女性部のみなさんとJA職員

七夕飾りで楽しもう 三高支部

三高支部は6月17日、部員11人が参加してJA三高支店で「七夕飾り」を作りました。

手芸が得意な部員を講師に、短冊や網飾り、輪飾りなど季節感あふれる笹飾りを思い思いに飾り、それぞれの個性が光る「七夕飾り」が出来上がりました。

支部長の武田民子さんは「これから梅雨を迎え、家にいる時間が多くなる。昔懐かしい七夕飾りで季節を楽しんでほしい」と笑顔で話しました。



▲出来上がった七夕飾りに笑顔が広がります



▲思い思いに飾り付ける部員